

# 一般質問(要旨)

第2回定例会では、6月17日、18日、20日、21日の4日間にわたり21人の議員が一般質問を行いました。各議員の主な質問と答弁を要約して掲載します。

安心・安全について



しの浩司

**問** ①子どもが「自分の身は自分で守る」ための具体的な取り組みとは②平成30年度の狛江市通学路合同点検の実施状況と対応は③水道道路整備事業概要及び測量説明会が行われた経緯は④説明会の様子は⑤水道道路整備事業の今後の予定は⑥通学路の安全管理のために導入したデジタル地図の活用状況は⑦保育園等の散歩コースの安全をどのように確保するのか⑧高齢者ドライバーの安全運転への取り組みは⑨運転を必要とする高齢者ドライバーに対する新たな取り組みも必要ではないか⑩防災気象情報とは何か。またその役割は⑪警戒レベルとは⑫警戒レベル発令時の市の対応は⑬市民の心構えは⑭洪水時の避難所等を伝えるためにどのような啓発を行っているのか⑮避難勧告等や警戒レベルはどのように伝達するのか。

**答** ①「安全教育プログラム」を活用した指導やセーフティ教室等②33カ所点検、対策が必要な11カ所のうち7カ所へカラー舗装や啓発看板設置③町会・PTA・市が連携し要望、都が準備を重ね説明会に至った④226名の参加。関心の高さが伺える⑤現況測量、用地測量を行い事業認可手続を取る⑥対策状況等をデータ化し、3月から運用⑦危険箇所を市でまとめ保育園等と共有し警察とも連携⑧HPで65歳以上の安全教室等の紹介や各種イベント実施⑨市で何が出来るか検討⑩気象庁が気象注意報・警報など危険度に応じ段階的に発表する情報で、避難行動の参考となるもの⑪住民等がとるべき行動を5段階に分けた情報⑫警戒レベル1、2は職員態勢や対策の検討と市民へ注意喚起、レベル3、4は避難勧告等の発令、伝達、避難所の開設⑬情報の収集、防災情報を理解し自身がとるべき行動の認識⑭防災ガイド、安心安全通信への掲載、電柱に最大浸水深と水害時の最寄りの避難所の案内板を設置⑮メディア配信、安心安全情報メール、SNS、車両による広報等。

安心・安全について



栗山たけし

**問** ①自転車事故の要因分析。自転車と自動車、自転車と自転車、自転車と歩行者について。②狛江市と調布警察との自転車事故防止に關して取り組みは。③学校見守り活動の方々より、通行車両について要望はあったか。④道路街灯LED化について、経緯及び経費面について。⑤道路が暗いと要望が有った場合、全て新設は可能なのか。⑥自然災害時に最も準備が必要と考えている事は何か。⑦野川工事期間中は、市民の皆様へ人気の「生きもの調査」はどうなるのか。また普段の利用についてどうなるのか。

**答** ①平成30年中は自転車対自動車21件、自転車対自転車3件、自転車対歩行者3件、その他4件、合計31件。そのうち、自転車の過失割合が大きい事故は9件。②各種イベントや交通安全教室開催などで連携。③PTA要望として車両スピード抑制に向けた対策やスクールゾーン、車両通行止め地域の施設、取り締りの強化等。④蛍光灯などに比べ、CO2削減等が期待され平成29年度に全ての街路灯をLED化。年間約750万円から800万円の削減効果。⑤設置要綱を踏まえ現地確認し設置を判断。⑥地域防災計画等に基づく更なる全庁的な災害対策の展開が重要。⑦冬の生きもの調査は工事区間を避けるなど工夫して実施。工事期間中は高水敷での散策や野川サイクリングロードの通行が一部制限される予定。

安心で安全なまちづくりについて



三角たけひさ

**問** 「選挙ポスター公営掲示板」①狛江市における公職選挙に関するポスター掲示場の設置根拠がどのようになっているのか②ポスター掲示場の仕様・補修・業者における業者車両及び歩行者への安全対策について業者への指示は③設置後の点検作業実施について伺う。

**答** ①公職選挙法、同法施行令、条例に基づき、市内104箇所にポスター掲示場を設置②仕様書に「通行等に支障がないよう注意すること」と明記し、口頭でも注意を促している③受託業者より提出される写真一覧により確認し、必要に応じて業者に連絡。

「大雨警報の種類」

**問** ①警戒レベルの運用が本年5月29日から気象庁において運用が始まったが、狛江市の運用状況は②住民が自らの命を守るため、狛江市は防災気象情報のレベル化について、周知活動が必要である。狛江市の見解は③適切な伝達ツールをどう整えるのか。その対策。

**答** ①今出水期より避難勧告等の発令にあわせて警戒レベルの表記を行う。住民への周知啓発に努める②関係機関と連携し情報の意味やとるべき行動を平時から周知すること③適切な避難行動につながる④既存の手段の周知啓発と有効なツール等を研究していく。

「住んで楽しい街…こまえ」

**問** ①狛江市をひらがな標記の「こまえ市」に変えようという提案に対して②小田急線高架下の壁を使用している「壁打ちスポット」創設について③絵手紙体験教室や農家のもぎ取り体験を取り入れた市民による観光案内は。

**答** ①それぞれ長所短所があるが、まずは市民意識の確認が必要②慎重な検討が必要③市民が企画運営に関わることでシビックプライド醸成につながると考える。

看護師のネットワークづくり



太田久美子

**問** ①災害時に市が看護師に期待する役割は②災害時に在宅医療を受けている市民を守るため、訪問看護ステーションと協定を結ぶべき③免許はあるが現場を離れている潜在看護師から災害時に役立ちたいとの声もあるが、避難所での協力を働きかけてはどうか。

**答** ①救護所に派遣し、医師とともに看護要員の必要情報は認識。潜在看護師の方のように協力がいただけるか今後検討していく。

中高年のひきこもり対策

**問** ①中高年の「ひきこもり」実態が初めて公表されたが「ひきこもり」問題をどう考えているのか②本市の「ひきこもり」の現状は③気軽に相談ができる「福祉なんでも相談窓口」を設置すべきと思うが④いじめ・不登校対策の拡充に向けて市の考えは。

**答** ①61・3万人という調査結果を非常に重く受け止めている②狛江市若者生活実態調査でひきこもり等の状況を把握した③狛江市社会福祉法人連絡会による「福祉なんでも相談」窓口を開設④児童・生徒に寄り添いながら充実に努める。

令和時代の新しい教育

**問** ①学校教育が目指す「生きる力」とは②今回の学習指導要領改訂で新しく取り入れられた教育内容は③小学校で英語が導入されるが、教員の研修や指導体制は④プログラミング教育にどう取り組んでいくのか。

**答** ①確かな学力、豊かな人間性、健やかな心②外国語教育や情報活用能力の充実③英語リーダー研修会への参加や情報共有、外国語指導法研修会等④タブレット整備、ペーパー活用やプログラミング教育推進校指定。